

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	学校図書館図書の整備は市の施策として充実されるべきものと考えている。図書購入費を追加配当することにより、学校図書館図書が整備されている。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で定める学校図書館図書標準に対し整備率が低いことから継続して学校図書館図書の整備に努める必要がある。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	学校図書館図書を整備することは、生徒が自己教育力を養ううえで重要な役割を担っており、主体的な学習が可能となり、かつ豊かな情操を育むことができる。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	学校で予算執行するため取りまとめに時間がかかるので検討が必要である。	○ 高 ● 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努める。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成17年度 決算額	平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 予算額	平成21年度 計画額	平成22年度 計画額	平成23年度 計画額
事業内容				図書の充実	図書の充実	図書の充実		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	14,482	10,331	15,982	0	0
事業費 (A)		0	0	14,482	10,331	15,982	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	100.00				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.11	0.11	0.11	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	924	924	924	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	15,406	11,255	16,906	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成21年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 各学校の図書整備費の要求額に追加配当を行うことで学校図書館図書の蔵書数を増やしていく。	
平成21年度 of 取組方針	
学校図書館図書の蔵書数の充実により学習環境の向上を図る。	
課長コメント	学校図書は、生徒の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で学校教育上重要な役割を担っている。文部科学省が策定した「学校図書館図書標準」に沿い、学校図書館図書の整備を図っていききたい。